

市民総参加の

国体を目指して！



【民泊など】

総勢800人を迎え、最低3泊から最高8泊になることも。市全域で17の地区協力が立ち上がり、民泊受け入れに向けて各協力会とも努力しています。

なにしろ50年に一回の大会とあっては、誰も経験したことがない。「試行錯誤しながら取り組んでいます」とのことですが、地域の婦人部が独自に国体用のメニュー作りに取り組んだり、スポーツセンター周辺を一面のコスモス畑にして歓迎しようという運動が始まるなど、地域での協力の輪が広がっているうれしいニュースもあるようです。

【競技会場の視察】

続いて、実際に競技の行われる施設を見学しようと私たちが訪れたのは、平成12年3月に全面改装された高知県警察学校の射撃場。

普段はなかなか入れないところとあって、みんな少しばかり緊張しながら扉の奥に進

んでいくと、そこには人工芝を敷き詰め、明るく広々とした屋内競技場がありました。



横一列に並んだ標的は全部で14。競技では、回転標的（速射用標的）と静止標的（精密射撃用標的）への正確な射撃を競うとのことですが、直径20センチの標的との距離は25メートル。実際に射撃位置から見ると、小さな黒い点のようにしか見えません。また、国体で使用する銃は、通常警察官が所持している銃よりさらに重い競技用。これを片手でねらいを定め、瞬時に的に当たるとなると、視力と集中力に加えて、想像を絶する射撃の技術が要求されるそうです。



競技場を案内していただいた

た高橋さんは、今国体ライフル射撃競技の責任者であると同時に、選手として国体出場経験を持つ一人でもあります。「参加する選手はほとんどが中心付近に命中します」と話してくれました。

普段見ることの少ない競技であるだけに、大会期間中にはぜひ足を運んで、間近に射撃の技を実感してみたいものです。

さて最後は、少年男子サッカーのメイン会場となる吾岡山文化の森・多目的広場です。香長平野の中にぽっかり浮かんだ。魔法のじゅうたん。の広さは約1.8ヘクタール。南国市役所が約3個も入ると言え、その広さが想像できるでしょうか。



平成11年度からスポーツハウスなどの施設整備に取り組み、現在は芝生の植え付けにかかっていました。

県民あげての一大イベントよさこい高知国体開催までいよいよ一年余り。
まずは、中央公民館にある国体推進室を訪ね、事務局の方から今後の課題や問題点について聞きました。
国体開催にあたって、民泊・会場・審判員の確保はもちろんのこと、多数の選手・関係役員の競技場への輸送や交通渋滞、食事の問題など、さまざまな問題があります。



末政 須賀子さん(田村乙)

昨年まで地区公民館の審議員をしていました。地区でバドミントン4チームを受け持つことになり、民泊先の家庭を決めるにあたって、お世話をさせていただきました。地区の総会で「熊本国体」のビデオを見ました。

地区一丸となつての歓迎のすごさに驚きました。

田村地区は農家が多く、また秋季大会のころは、農繁期なので、熊本国体のように盛大な歓迎ができるか分かりませんが、「まごころ」を大切に私たちができる精一杯の応援やお世話をしていきたいです。



長曾我部 玲子さん(奈路)

奈路公民館で選手(女子バスケット)の食事を作ることになっています。食生活改善推進委員をしているので、果が主催の講習を受けた後、国体の料理を地元で調理する30名ほどの方に教えなければなりません。

当初、設備など不十分な奈路公民館で、選手に十分な「もてなし」ができるか不安や重荷に感じていました。しかし今は、自分たちが国体を楽しもうと気持ちを切り替えています。

「奈路公民館に来て良かった」と思ってもらえるように地元意識を高め、国体を盛り上げていきたいです。



田中 宗助さん(前浜)

前浜地区国体協会の委員をしています。

前浜地区ではバドミントン4チームの民泊があり、私は浜地区の民泊のお世話をしています。

民泊家庭を第一に尊重し、ぬくもりある家族的な民泊づくりに協力していきたいです。

前浜地区全体で盛り上がるためにも、国体のPR活動をより一層行い、心に残る国体、温かい民泊を目指して頑張っていきます。

一人ひとりが真心で！

経費節減のため、種をまいで育成する方法が取られていたとのこと、今はまだ小さな芝生が寒冷紗のそこそこから顔をのぞかせて、時おり回るスプリングラーの水を一身に浴びていました。やがてその芝生がフィールド一面を青々とおおい、たくさんさんのサッカー少年たちが力一杯駆け回る姿を想像すると、わくわくしてきます。

今年11月のリハール大会に間に合わせるため、一日も気を緩めない管理体制がこれからも続きます。国体終了後、吾岡山文化の森・多目的広場は一般に開放される予定です。隣接する子ども広場や、太平洋から四国山地まで香長平野が一望できる展望所とあわせ、魅力的な市民の憩いの場になりそうです。



【思い出に残る国体に！】国体も二巡目を迎え、あり方を見直す時期です。よさこい高知国体は、新しい形を全国に発信できる50年に一度の大きなチャンスではないでしょうか。全国からやってくる選手たちと楽しみ、大会にかかわる人すべてが充実感を持てる国体になるよう、日頃スポーツに無縁な私たちも、身近なことから始めたいと思います。ながら取材を終えました。